

# 聖マリアンナ医科大学病院における 医師の働き方改革推進会議 実施報告



# 目次

1. 医療機関の概要
2. 意見交換会を開催するに至った背景
3. 意見交換会に向けた準備
4. 意見交換会(当日)
5. 実施後アンケート
6. コアメンバーから振り返りと今後に向けての展望



# 1. 医療機関の概要



## 医療機関の概要

一般病棟:924床、精神病棟:31床(令和6年1月25日現在)

職員数:2,616名(令和5年6月1日現在)

救急車年間受け入れ台数:5,217台(令和4年度実績)

総合周産期母子医療センター



## 2. 意見交換会を 開催するに至った背景



## 臨床研修医の長時間労働の実態(働き方の実態)

当院の臨床研修医については、一人あたり平均で月25時間程度の時間外・休日労働となっており、月80時間超えとなる臨床研修医は過去3年間でも、1~2名である。現在の日勤・当直の勤務体制であれば、A水準に問題なく収まる状況である。

## 医師の働き方改革に関する取組状況

令和6年4月からの医師の働き方改革開始に向け、令和5年8月より、夜間帯の業務に関してほとんどの診療科で宿日直許可申請を行った。また、オンコール体制への大幅な変更を実施した。

## 意見交換会に期待すること

医師の働き方改革に対する臨床研修指導医および臨床研修医の意識向上と、他学・他施設の取り組み状況を参考に、幅広い議論をしてもらいたいと期待している。



会議開催までの背景・課題

### 3. 意見交換会に向けた準備



## 意見交換会に向けたコアメンバーとの調整

日程(令和5・6年)	当日に向けた準備
11月30日	サポートプロジェクトへの申込み
12月11日	コアメンバー(臨床研修センター担当者、臨床研修医)とサポートプロジェクト事務局との打合せ① ・テーマの方向性の検討 ・開催方法(対面形式)、事前アンケート実施の決定
12月12日~1月9日	開催に向けた関係者調整 ・事前アンケート内容の検討 ・会場の手配 ・参加対象者の検討 等
12月25日~1月4日	事前アンケートの実施
1月9日	コアメンバー(臨床研修センター担当者、臨床研修医)と司会者、サポートプロジェクト事務局との打合せ② ・事前アンケート結果の共有 ・意見交換会のテーマ、議題、ディスカッション方法、事前配布資料の決定 ・参加者の確定
1月16日	コアメンバー(臨床研修センター担当者、臨床研修医)とサポートプロジェクト事務局でロケハンの実施 ・会場設備、環境の確認 等
1月17日~1月22日	開催に向けた関係者調整 ・当日の進行方法の確認 ・ディスカッションのグループ分け 等
1月23日	開催当日



# 意見交換会に向けたコアメンバーとの調整

## 事前打合せ①: 令和5年12月11日(月)

### 【出席者】

コアメンバー(臨床研修センター担当者、臨床研修医)、厚生労働省、事務局

### 【打合せ内容】

- ・臨床研修医の働き方改革の取組状況のヒアリング
- ・テーマの方向性の検討
- ・事前アンケート実施の決定
- ・開催方法の決定(対面形式)

## 事前打合せ②: 令和6年1月9日(火)

### 【出席者】

コアメンバー(臨床研修センター担当者、臨床研修医)、司会者(外部より招聘)、厚生労働省、事務局

### 【打合せ内容】

- ・事前アンケートの結果共有
- ・参加人数/ディスカッショングループ分け
- ・ディスカッションの内容/方法
- ・事前学習資料の検討



会議開催に向けた準備

## コアメンバーとの事前ディスカッション

### 【コアメンバー意見】

臨床研修医だけではなく臨床研修指導医も含めた勤務環境の改善について考えたいと思っており、医師の働き方改革が始まる中で「臨床研修医が臨床研修に望むこと」、「臨床研修指導医が臨床研修医に求めること」のギャップを埋められるような意見交換をしたい。

### 【意見を踏まえた意見交換会の方針】

- ・臨床研修医同士で、時間外・休日労働の上限規制が始まるにあたり感じていることや、上限規制が開始する4月以降において臨床研修医がどのように業務に従事するべきかを意見交換することとする。
- ・臨床研修指導医はオブザーバーとして参加し、臨床研修医の臨床研修に対する考えや思い等、状況を知ってもらいつつ、お互いに理解することを目標とする意見交換会にする。

## 当日に向けた準備(参加者向けの事前学習・当日の開催に向けた調整)

- ・コアメンバーを中心に事前アンケート設問を検討。事務局にてGoogle Formでアンケートを作成し、参加者に向けて事前アンケートを実施してその結果を参加者へ共有した。
- ・コアメンバーが参加者の調整を行い、事務局よりグループ分けの助言を行った。
- ・具体的には、異なる立場同士での認識の違いや考え方の理解を促進するために、臨床研修医だけではなく臨床研修医指導医にも参加もしくは傍聴してはどうか、といった助言を行った。
- ・厚生労働省が制作した医師の働き方改革解説マンガ(「医療を未来につなぐために～マンガでわかる医師の働き方改革～」)と、事前アンケートの結果を事前学習資料として配布し、コアメンバーが院内へ周知した。
- ・コアメンバーが会場を手配し、事務局が事前の現場視察の上で会場設営の準備を実施した。

### <参考として用いた資料>

医師の働き方改革解説マンガ「医療を未来につなぐために～マンガでわかる医師の働き方改革～」

(掲載リンク先:<https://iryoku-kinmukankyou.mhlw.go.jp/manga/>)

## 4. 意見交換会(当日)



# 開催概要

開催日:令和6年1月23日(火)16:15~17:45

会場:聖マリアンナ医科大学病院 会議室

開催方法:対面形式(グループ分け・席配置等はP14参照)

開催テーマ:聖マリアンナ医科大学病院における医師の働き方改革実施に向けた臨床研修医の働き方について

意見交換議題①:時間外労働上限規制に対する今の時点での不安や感じていること

意見交換議題②:A水準となる臨床研修医が4月以降の業務中に意識すべきこと  
(モチベーションや臨床研修指導医への望み)

## 【プログラムとタイムスケジュール】

No	時刻	概要	対応者	内容
1	16:15	開会・司会者自己紹介	司会者	開会の挨拶と自己紹介(3分)
2	16:18	ご挨拶	院長	聖マリアンナ医科大学病院の働き方改革の現状や今後の方針について説明(2分)
3	16:20	テーマ発表・ミニレクチャー	司会者	意見交換会のテーマを発表し進め方を説明。ミニレクチャーを実施(10分)
4	16:30	意見交換①	参加者	意見交換①のテーマに沿ってディスカッションを実施(20分)
5	16:50	発表①	参加者	意見交換①のグループ発表(全グループ)(8分)
6	16:58	発表①への講評・意見交換②の説明	司会者	司会者の講評(3分)
7	17:01	意見交換②	参加者	意見交換②のテーマに沿ってディスカッションを実施(20分)
8	17:21	発表②	参加者	意見交換②のグループ発表(全グループ)(10分)
9	17:31	質疑応答・感想	司会者、参加者	意見交換を実施しての質疑応答、感想(9分)
10	17:40	全体講評	臨床研修センター長	意見交換会の講評(3分)
11	17:43	閉会・アンケート	司会者	閉会の挨拶とアンケート記載の案内(2分)
12	17:45	終了		終了

## 参加者の人数/属性

### 【参加人数】

9名(臨床研修医1年次:5名 臨床研修医2年次:4名)

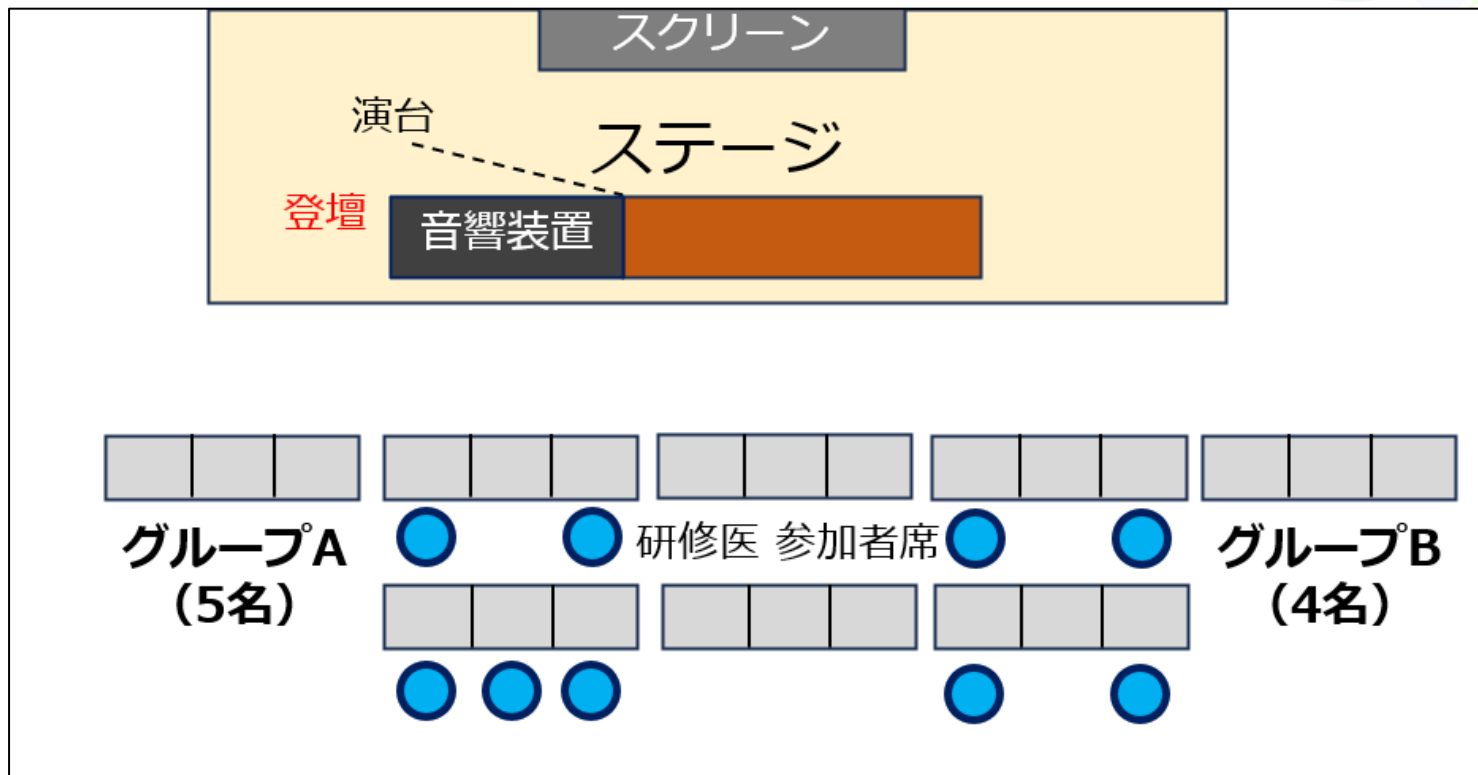
### 【ディスカッション時のグループ分け】

臨床研修医の研修状況を踏まえ、多様な視点でディスカッションを行うために年次を交えたグループ分けを実施。

グループA		グループB	
臨床研修医 (2年次)	臨床研修医 (2年次)	臨床研修医 (2年次)	臨床研修医 (2年次)
臨床研修医 (1年次)	臨床研修医 (1年次)	臨床研修医 (1年次)	臨床研修医 (1年次)
臨床研修医 (1年次)	—	—	—

# 参加者の人数/属性

【当日の席配置】



# 当日のプログラムの進め方

## 【テーマ発表・ミニレクチャー】

テーマ：聖マリアンナ医科大学病院における医師の働き方改革実施に向けた臨床研修医の働き方について

### ▼進行(司会者が実施)

- ・司会者から意見交換会のテーマを発表し、ミニレクチャーを実施。
- ・ミニレクチャーでは、司会者によって作成されたスライドを用いて、臨床研修医の労働時間に関するデータや働き方改革が臨床研修医に与える影響などを紹介。

### ▼ミニレクチャー資料抜粋

#### 研究テーマ：研修医にとって適切な労働時間とは？

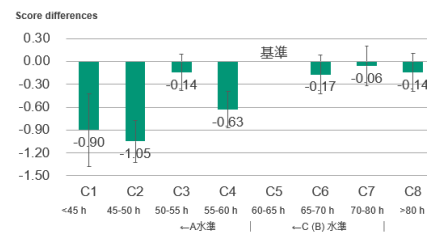
- 議論の焦点は教育、健康、医療安全、医療システムの維持など複数ある。  
J Gen Fam Med. 2023 Sep 21;24(6):323-331.
- リサーチクエッション
  1. 研修医の教育にとって必要な労働時間とは？
  2. 労働時間制限が研修医の教育に与える影響とは？
  3. 研修医のメンタルヘルスを悪化させる労働時間とは？
  4. 労働時間制限が医療安全に与える影響については？

11

#### 研修医の労働時間と試験点数との関連

Med Teach. 2022 Apr;44(4):433-440.

- 方法：2019年度基本的臨床能力評価試験を受験した研修医（5593名）が参加し、試験直後にアンケートを配布し、平均の週労働時間（8カテゴリー）を尋ねた。多変量解析により試験点数（60点満点）と労働時間の関連を検討した。
- 結果：週60時間以下では基準群より点数が低いが、一方で週65時間以上では基準群と点数差がない。



- 結論：教育的観点から研修医の労働時間は週60-65時間が最適である可能性がある。

12



## ポイント

意見交換前に参加者に対してミニレクチャーを行うことでテーマへの理解を深められた。

## 当日のプログラムの進め方

【意見交換①:時間外労働上限規制に対する今の時点での不安や感じていること】

▼進行(司会者が実施)

- ・臨床研修医同士で時間外労働の上限規制に対する思いを共有するために、各グループでディスカッションを20分間実施。
- ・各グループで出た意見は臨床研修医1年目、2年目で色分けした付箋に記載して、記載用紙に貼付(A3サイズ)。
- ・発表は、両グループとも実施。(発表内容はP19~20を参照)



ポイント

臨床研修医1年次と2年次の付箋の色を分けることで、視覚的にも整理できるように実施。  
(発表用紙はP18を参照)



## 当日のプログラムの進め方

【意見交換②：A水準となる臨床研修医が4月以降の業務中に意識すべきこと(モチベーションや臨床研修指導医への望み)】

### ▼進行(司会者が実施)

- ・意見交換①を踏まえて、働き方改革が施行される4月以降の業務における臨床研修医本人のモチベーションのあり方や、臨床研修指導医に望むこと等についてディスカッションを20分間実施。
- ・各グループで出た意見は臨床研修医1年次、2年次で色分けした付箋に記載して、記載用紙(A3サイズ)に貼付。
- ・ディスカッション中は臨床研修指導医たちがグループを周り、臨床研修医の意見に対して指導医の視点から意見を述べたりした。
- ・発表は、両グループとも実施。(発表内容はP21～23参照)

### ポイント

臨床研修医1年目と2年目で付箋の色を分け、記載用紙も「自分のモチベーション・意識したいこと等」と「臨床研修指導医やローテーション科への望み」で貼付部分を分けることで、視覚的に意見を整理できるようにした。また、意見交換②のタイミングで臨床研修指導医がグループを周りながら、意見交換会を行う臨床研修医に向けて適宜コメントをすることで、臨床研修指導医側も令和6年4月以降の臨床研修についての課題を検討するきっかけとなった。(発表用紙はP18を参照)



# 意見交換① 時間外労働上限規制に対する今の時点での不安や感じていること

## グループ発表の概要

### ▼グループAの発表

Aグループでは、教育と環境、賃金についての意見が出た。

#### ①教育について

- ・現在の研修では診療科によって経験できる手技や機会に差がある。忙しい診療科では拘束時間と引き換えに学習できていた部分が、働き方改革により失われる可能性がある。
- ・臨床研修医の教育が、若手の医師(特にローテーション科の専攻医)に集中し、専攻医の負担になる懸念がある。
- ・臨床研修医は、当直明けや休みの時間についての話が気軽に出やすくなる。そうすると、自分が休むことばかりに意識が向くようになり、医師としての患者治療への責任感が希薄になる可能性もある。

#### ②勤務環境について

- ・現状、院内の環境が24時間の当直体制に見合っていないと感じている。例えば、臨床研修医が気軽に使える当直室では男女別で4ベッドずつしかなく、当直の人数によっては当直室が使用できない状況が発生していることがある。
- ・夜間の診療ブースも足りていないと要望が上がっているが、なかなか反映されていない。

#### ③賃金について

- ・時間外労働と研鑽の線引きが曖昧である。
- ・時間外労働の上限規制により、給料が減少する可能性があるのではという不安がある。



# 意見交換① 時間外労働上限規制に対する今の時点での不安や感じていること

## グループ発表の概要

### ▼グループBの発表

Bグループでは、労働環境と労働時間についての意見が出た。

#### ①労働環境について

- ・現在、当院では夜間帯を臨床研修医が主に担当しているが、近隣の病院が夜間診療を行わなくなると、地域医療を維持していくために当院に患者が集中することが予想される。現状の当直体制で、見込まれる患者数を診療できるのか、またそれ以上の患者数が想定される場合、夜間の業務負担が増加するのではと不安に思っている。

#### ②労働時間について

- ・月の労働時間が上限規制に引っかかりそうな場合、その月の後半は残業を避けるようになることで、労働時間の減少が給料の減少につながることを懸念している。
- ・時間外労働時間の上限規制により、時間外申請がしにくい雰囲気生まれにくい心配している。
- ・労働時間と自己研鑽の認識の違いが問題にならないか懸念している。



## グループ発表の概要

### ▼グループAの発表

#### ①モチベーション

- ・臨床研修医が診療科のチームの一員としてしっかり業務に参加したいというモチベーションがある。
- ・業務時間内に業務を終えるために積極的にやることがないかを考え、自分たちができることを増やしていきたい。
- ・一方、これらの懸念として、どちらかというとなをしたいと考える臨床研修医が多い環境では、1人で頑張ることは難しいと感じている。

#### ②臨床研修指導医やローテーション科への望み

- ・臨床研修指導医の先生が外来から戻ってくるのを待つ時間を削減し、臨床研修時にできる限りの経験を積むことで有意義な労働をしたい。
- ・ただ、臨床研修時に習得する技能をどんどん増やすとなると時間にも限りがあるので、学生時代から技能を前倒しで習得し、技能がある程度習得できた状態で臨床研修に臨むことができるような学生教育に力を入れていただきたい。

#### ③病院への要望

- ・病院から臨床研修医に対して、例えばこの病院では多くの手技を学ぶことができる、比較的業務は忙しいけれど手技が習熟できるように臨床研修医教育に力を入れている等のように、病院の強みが何なのかをはっきり示してほしい。
- ・現状、労働時間でしか働き方改革の効果を示されていないため、福利厚生や対応患者数など、働き方改革によってどう改善されるのかを明確にしてほしい。

## グループ発表の概要

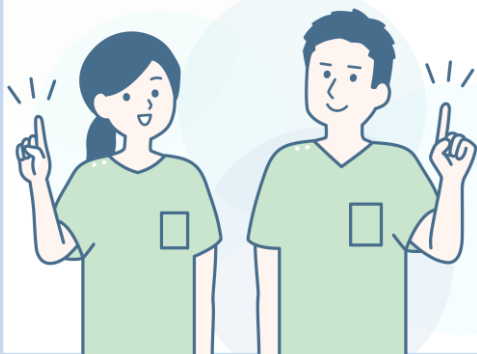
### ▼グループBの発表

#### ①モチベーション

- ・来年から臨床研修医はA水準が適用されるものの、今の研修環境と大きく変わらないと思っている。実際、A水準を超えるような労働環境に身を置く臨床研修医は当院にほとんどいないため、あまり意識しなくともよいという意見でまとまった。
- ・1年目の臨床研修医は来年、2年目の臨床研修医として、夜間救急に対するモチベーションを高く持ち、多くの患者さんを見ることができるよう頑張っていきたい。
- ・夜間帯の勤務が病院全体で負担となることが予想されるため、病院全体としてチームワークを高め、臨床研修医同士でもチームワークを発揮して効率的な業務を行えるように意識したい。

#### ②臨床研修指導医やローテーション科への望み

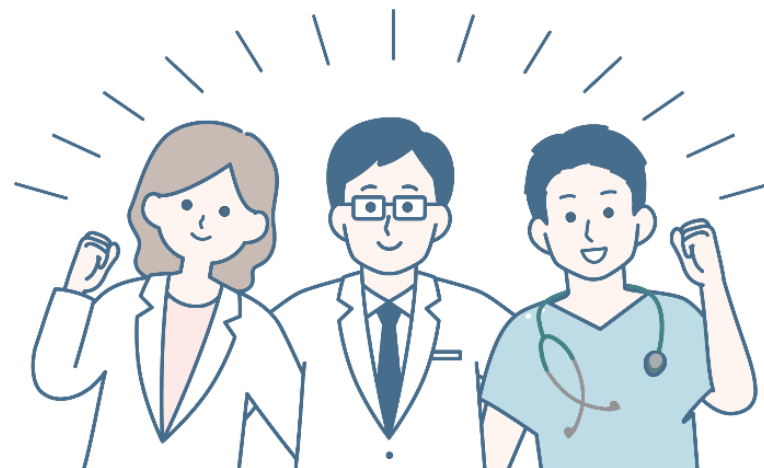
- ・有給休暇の取得について診療科ごとに意識の差があると感じているため、各診療科の先生方から休暇の取得について話題を振ってもらえると、臨床研修医もの申請がしやすくなると思う。
- ・働き方改革を病院全体で実現するためには、個人の意見が言いやすい、風通しの良い職場の雰囲気作りも重要だと思うので、意識しながら業務をしていきたい。



## その他の参加者からの感想(抜粋)

- ・臨床研修指導医として、現状、大学病院として多様な臨床研修医のニーズに応えていけないといけない。いろいろな臨床研修医の考え方を拾い上げられるメンター的な存在が求められていると感じている。それに対し、それぞれの臨床研修医に対してアウトカムがそれぞれ異なるという形でも良いのではと考えた。
- ・司会者の先生が仰っていた、臨床研修医全員が同じ方向を向いている環境づくりも新しい考え方であると感じた。その場合、病院側で研修プログラムを打ち出した上、同じモチベーションを持つ臨床研修医を集めるために、入職試験の段階から臨床研修医の候補をセクションしていく方向性を考える必要もあった。ただし、大学病院では臨床だけでなく研究や教育も重要な役割を果たすため、今のような多様性のある臨床研修医が集まることも良いと言える。
- ・大学病院で臨床を経験する時間が少なくても、研究や学生教育に携われる研修もあっても良いと思っている。そのためにも、臨床研修指導医が、より臨床研修医に対する教育の能力を高める必要があると感じた。

## 5. 実施後アンケート

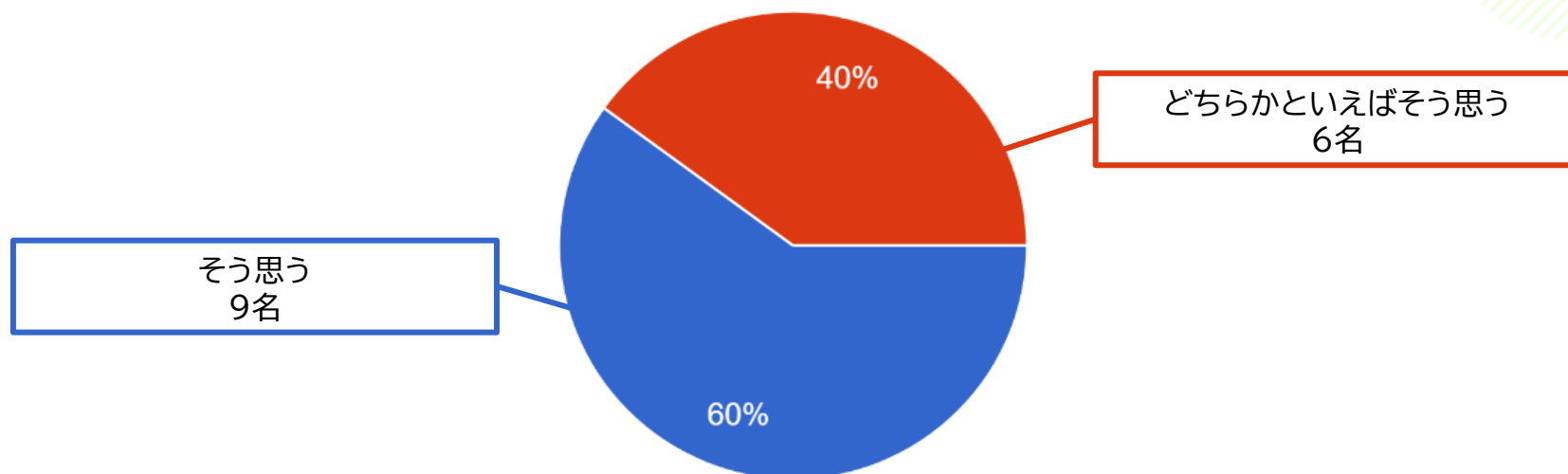




## アンケート結果

アンケートは意見交換会直後にGoogleFormを用いて実施した。意見交換会参加者16名中15名より回答を得た。(臨床研修指導医の回答を含む)

Q1:本日の意見交換会は、医師の働き方改革や臨床研修に対する受け止めの違いについて、お互いの認識を共有するのに有用でしたか。(回答数:15)

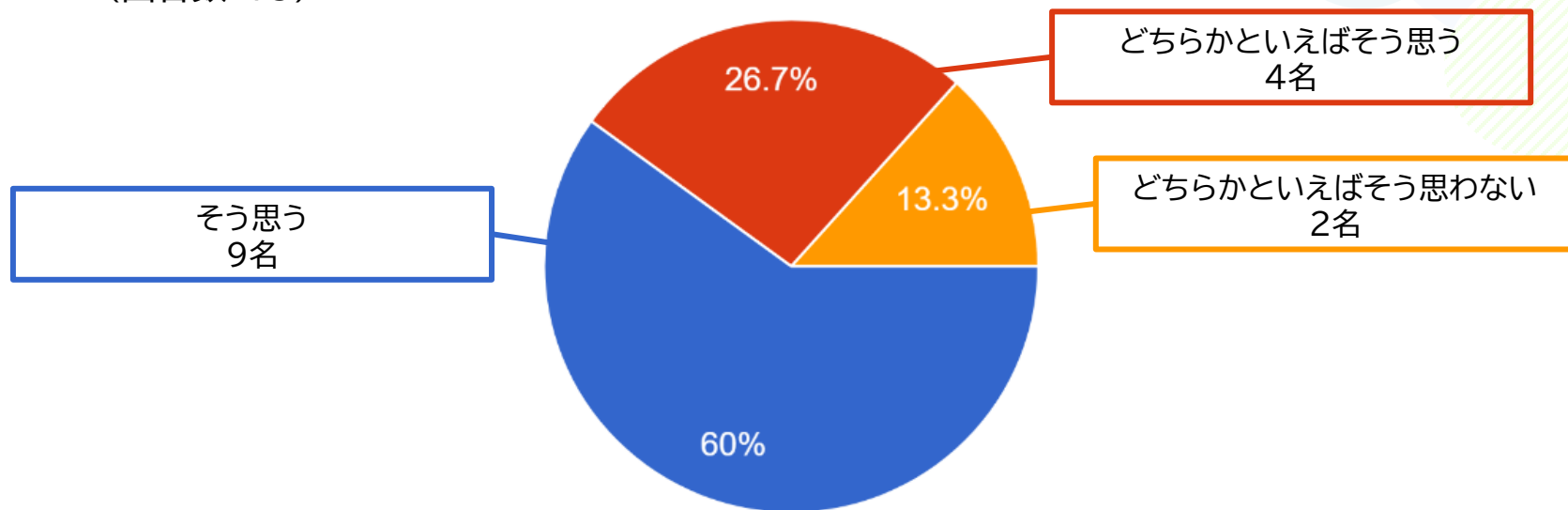


その理由はなぜですか。(任意回答)

- ・臨床研修医側の意見と病院側の意見の相違があるから。
- ・臨床研修医と臨床研修指導医のお互いの意見を聞いてよかったから。
- ・問題点や現状を見直すことができたから。

## アンケート結果

Q2:本日の意見交換会は、今後、医師の働き方改革を意識しつつ、臨床研修医の研修や臨床研修指導医の指導方法に関する必要な取組や課題を認識及び共有するのに有用でしたか。  
(回答数:15)

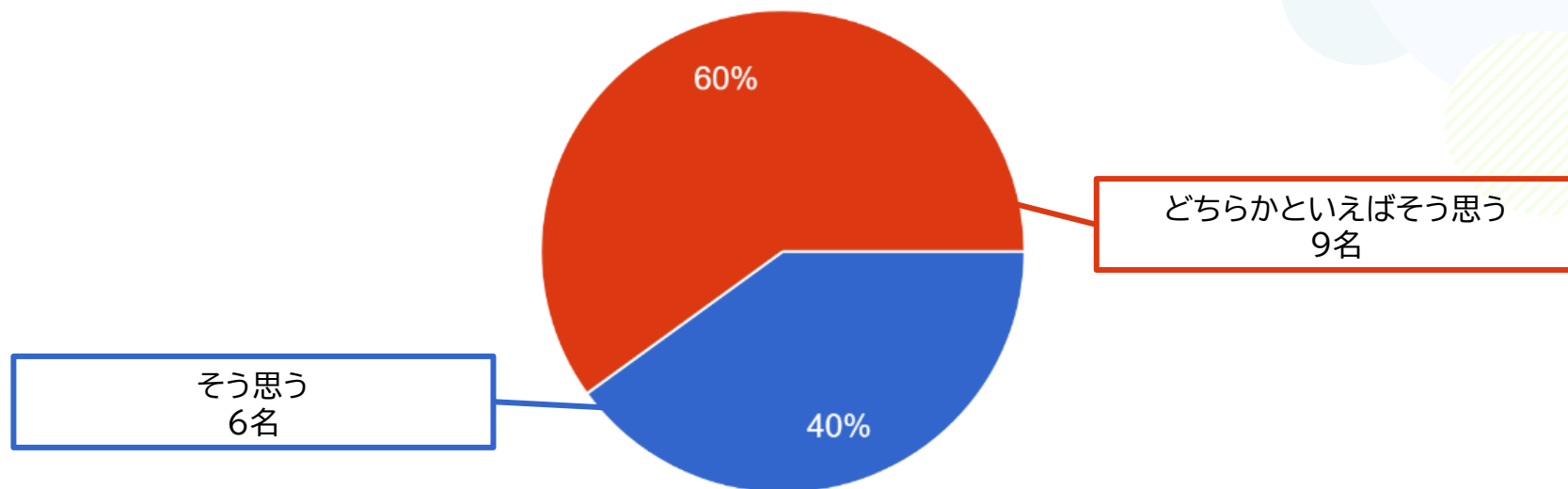


その理由はなぜですか。(任意回答)

- ・忖度のない意見が言えたから。
- ・双方の意見をすり合わせる場となったから。
- ・臨床研修指導医の先生方から直接意見を伺うことができたから。
- ・具体的な方策については、十分に議論できなかったと感じているから。ただし、変形労働時間制については非常に参考になった。

## アンケート結果

Q3:本日の意見交換会で、医師の働き方改革に対するあなたの意識は高まりましたか。(回答数:15)



その理由はなぜですか。(任意回答)

- ・課題が明確になったから。
- ・本学以外の取り組みを知ることができたから。
- ・こういった場に参加しないと問題意識を持たないから。
- ・病院の上層部の先生方も臨床研修医のことを考えてくれており、我々もその期待に応えたいと感じたから。
- ・臨床研修医からこうした病院の運営に関わることで、様々な意見を伝えることができるから。

## アンケート結果

Q4: 今回のプログラムや進行などにおいて改善点があれば教えてください。その他、本日の意見交換会に対する全般的なご意見もあれば自由にご記載ください。(任意回答)

- ・とても素晴らしい機会だった。
- ・ディスカッションをするのに階段教室は不適切かと思った。
- ・せっかく臨床研修医が作成したプロダクトが紙では見えにくいので、Google スライドなど利用して、全体で共有できる方法や、緊急性が高いもの、影響が大きいものなどで付箋の色を変えるなど、ワークとしての工夫があっても良かった。
- ・今後、当院から医療行政の専門家を輩出していくために、医系技官や厚生局への派遣を是非勧め、現場と医療行政との相互の理解を深めていければと思った。



## 意見交換会参加者への意見交換会終了後追加インタビュー

意見交換会終了後6日以内に、改めて3名の参加者(Aさん:臨床研修指導医、Bさん:臨床研修指導医、Cさん:臨床研修医)に追加でインタビューを行った。

今回の意見交換会の取り組みや、ディスカッションで出た意見(臨床研修指導医や司会者等からの意見も含む)を他の臨床研修医の方や臨床研修指導医の方へ共有したいと思いますか。



Aさん

私は1996年に医師免許を取得した、臨床研修医らとはだいぶ歳が離れた世代の指導医であるが、研修の生の意見を聞けたという点が、今回の収穫だった。今回の意見交換会で出た意見やアイデアを、臨床研修指導医のみならず、臨床研修医らと接する機会のある職員全員に共有したい。



Bさん

臨床研修医たちの中でも多様な意見があることを改めて実感できたことが収穫だった。臨床研修指導医たちの中でも、働き方改革を踏まえての臨床研修医たちの働き方についての考え方は多様であり、正解はないのだと思う。そういった意味では、お互いの考え方を共有することは重要と考える。また、会場にいた数人の臨床研修指導医たちだけでも、意見は様々だった。臨床研修指導医たちの立場によっても重視するものが違う印象があり、管理者に近いものはルールを順守することを重視し、臨床業務を最前線で担っているものは患者やその家族に不利益が被らないことを重視し、臨床研修医たちとの距離が近いものは臨床研修医の満足度を重視するなどの違いがあった。

## 意見交換会参加者への意見交換会終了後追加インタビュー

意見交換会終了後6日以内に、改めて3名の参加者(Aさん:臨床研修指導医、Bさん:臨床研修指導医、Cさん:臨床研修医)に追加でインタビューを行った。

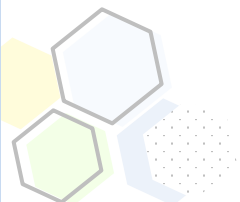
意見交換会の実施前と実施後で、医師の働き方改革を意識した臨床研修への指導の取り組み方(意識・行動など)に変化はありましたか。(ある場合)またそれはどういった変化ですか。



早く帰らせることが重要なのではなく、与えられた時間でどれだけ効率良く立派な医師を育成するかが重要なのだと理解した。  
また、改めて医師の働き方改革は患者の理解、社会の理解が必要だと感じた。一人の主治医が担当患者のすべて(急変対応や家族への病状説明など)を対応することは現実的ではなく、そのことを患者自身、そして社会が理解する必要があると思う。  
そういった背景から、今後の医師の働き方についてはタスク・シフト/シェアがいかにスムーズに行えるかが重要であり、そのことも指導する必要があると感じた。



Bさん



## 意見交換会参加者への意見交換会終了後追加インタビュー

意見交換会終了後6日以内に、改めて3名の参加者(Aさん:臨床研修指導医、Bさん:臨床研修指導医、Cさん:臨床研修医)に追加でインタビューを行った。

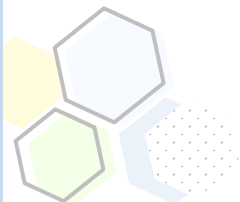
意見交換会の実施前と実施後で、医師の働き方改革を意識した臨床研修への取り組み方(意識・行動など)に変化はありましたか。(ある場合)またそれはどういった変化ですか。



大きな変化はない。ただ、自分が臨床研修指導医などの上の立場になった時に、下の年次の医師たちが帰りやすいように積極的に働き方改革を意識した行動を取ろうと思った。



Cさん



## 6. コアメンバーから振り返りと 今後に向けての展望





## 次回の意見交換会に向けたスケジュールや進行等の改善点

スケジュールの都合上、階段教室での実施となったが、次回以降はディスカッションがしやすいように会場の選定も重視したい。

A3用紙に学年別に色分けした付箋を貼る形式でディスカッションを実施したが、Google スライドなど利用して全体に共有しやすい形で実施したり、緊急性が高い・影響度が大きい意見は付箋を色分けすることでより分類しやすい形で実施することも検討したい。

## 目標達成に向けた改善点、課題点、今後の展望

令和6年4月からの臨床研修医の当直は、宿日直許可のない夜間勤務となり、夜勤として時間外労働時間にカウントされることになる。このため、週1回、月4回の夜勤であれば、既に56時間を時間外労働したことになってしまい、月80時間に収めるためには、通常的时间外業務を残りの24時間に収める必要があることは課題である。

また、令和6年4月の法令義務化後は、体調管理に配慮した勤務となるよう、院内各所への周知および共通理解が必須だと考えている。



今後に向けて